



一間社流れ見世棚造で柿葺(こけらぶき)、桁行 1.827m、梁間 1.073m、昭和 54 年、重要文化財に指定されている。荒城神社、阿多由太神社本殿に続くもので、飛騨地方の神社建築の流れを知る上にも重要である。

熊野神社本殿は、安国寺境内の北側にあつて西面して祀られ、近世には安国寺の鎮守であつた。現在は覆屋に入っている。明治初年、神仏分離によつて村社に列し、その後明治末期に拝殿、幣殿の建立と整えていった。その際、本殿を覆屋に格納するのに狭いため背面軒廻りを切断してしまつた。昭和 61 年から 2 カ年にわたり解体修理が行なわれた。

創祀は詳らかでないが、安国寺の鎮守堂として建てられ、寛永元年(1624)に西門前村の請願によつて産土神となり氏子達に守られてきた。西門前村は、もとは荒城神社を産土神とする宮地村の中にあつたが、安国寺の興隆とともに門前町ができ、ついには東・西に分かれたものである。東門前村は分裂後も産土神を荒城神社にしていたが、西門前村には神社がなかつた。そのため、産土神として安国寺の鎮守堂を崇拝するようになっていった。

現在の祭神は、熊野大権現、伊勢皇大神宮、白山妙理大権現の木彫神像を祀っている。この三神像の背にそれぞれ祭神の名が書かれている。この像はその作風から僧円空によるものとされ、延宝 4、5 年(1676、77)頃の作と言われている。

参考文献 『重要文化財 熊野神社本殿保存修理工事報告書』財団法人文化財建造物保存技術協会編集 重要文化財熊野神社本殿保存修理委員会 昭和 62 年 9 月発行

参考文献『高山市史・建造物編』



0001\_撮影風景



0002\_撮影風景



0003\_撮影風景



0004\_本堂



0005\_本堂



0006\_本堂



0007\_本堂



0008\_本堂



0009\_本堂



0010\_本堂



0011\_本堂



0012\_本堂



0013\_本堂



0014\_本堂



0015\_本堂



0016\_本堂



0017\_本堂



0018\_本堂



0019\_本堂



0020\_本堂



0021\_本堂



0022\_本堂



0023\_本堂



0024\_本堂



0025\_看板・石碑



0026\_看板・石碑



0027\_看板・石碑



0028\_看板・石碑



0029\_看板・石碑



0030\_看板・石碑



0031\_看板・石碑



0032\_看板・石碑



0033\_看板・石碑



0034\_看板・石碑



0035\_看板・石碑



0036\_看板・石碑



0037\_看板・石碑



0038\_看板・石碑



0039\_鳥居



0040\_鳥居



0041\_鳥居



0042\_鳥居



0043\_鳥居



0044\_鳥居



0045\_鳥居



0046\_鳥居